

令和 6 年度 自己評価表

【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的で深い学び、幅広い学びをとおして、学問への興味・関心や実践力を養い、社会参画力、課題対応力を育成する。
- 2 地域に学び、地域に貢献する態度を育てることをとおして、ふるさとを愛し、社会の平和と発展に寄与する実践力を育成する。
- 3 協働的に試行錯誤、切磋琢磨しながら学び、自身の夢の実現に向け、努力する力を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 生徒の進路希望の実現にむけた支援

① 基礎学力の充実

② 授業改善の推進

③ 探究活動の充実

④ 進路実現への支援
- 2 心身の健全な発達の促進と主体性の伸長

① 基本的生活習慣の確立

② 規範意識の高揚

③ 多様性に配慮した他者理解力の育成

④ 部活動の推進

⑤ 学校行事への積極的関与
- 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校作り

① 地域貢献活動の推進

② 情報発信の推進
- 4 業務改善の推進

① 時間外業務縮減への意識

評価項目	評価の 具体項目	令和 6 年度当初			評価結果（9 月）		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 生徒の進路希望の実現に向けた支援	基礎学力の充実	・自宅学習時間調査(11 月)では、1 週間の平均で 1 日当たり、1 年 86.4 分、2 年 84.2 分、3 年 133.4 分であり、昨年度調査よりも減少した。 ・授業評価アンケートでは、学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、1 年 85%、2 年 82%、3 年 89%。	・自宅学習時間は、1 週間平均で 1 日当たり、1、2 年が 120 分以上、3 年が 200 分以上。 ・学習内容に興味、関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の割合が、各学年とも 90%以上。	・自宅学習調査を定期的実施し、学習状況を把握した上で学習習慣の定着を図るよう指導する。また、学習支援サービスの活用を促す。 ・模擬試験の成績状況を分析し、基礎学力向上のための対策を実施する。			
	授業改善の取組	・昨年度は全 9 教科で計 17 回の公開研究授業を実施し、教員間で授業改善の情報共有に努めることができた。 ・主体的、対話的で深い学びを促進する授業改善をねらいとした校内職員研修を 2 月に実施し、職員のスキル向上を図った。	・全教科で研究授業、公開授業を総計 25 回以上実施し、他教科の授業も参観することで授業改善の参考とする。 ・教材の工夫や ICT の活用により、生徒の活動場面が増え、生徒が主体的に取り組む授業が実践される。	・全教科による研究・公開授業や校内研修を実施し、教科の枠を超えた授業改善に取り組む。			
	探究活動の充実	・探究部の調査(1 月)において、探究活動により思考力等が向上したとする生徒の割合は 38.3%。	・探究活動をとおして、思考力等が向上したとする割合が 60%以上。	・主体性等の評価の研究、指導方法の研究(問いづくり・情報分析)を推進する。			
	進路実現への支援	・学校評価アンケート(11 月)では、進路実現に向けて努力している生徒の割合は 79%。 ・進路志望調査(10 月)では、4 年制大学を志望している生徒が 1 年 162 名(68.0%)、2 年 169 名(71.3%)、3 年 185 名(78.2%)であり、そのうち国公立大学志望者は 1 年 138 名、2 年 120 名、3 年 102 名であった。 ・令和 6 年度入試で共通テストの出願は 121 名(50.4%)であり、国公立大学の現役合格者数は 53 名。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合が全体で 90%以上。 ・国公立大学の現役合格者数が 50 人以上。	・高い志望を掲げ努力する生徒を育成するために、各類型の特色を踏まえながら進路関係行事を充実させ、生徒の進路志望の実現を図る。			
2 促進と心身の健全な発達の伸長の	基本的生活習慣の確立	・生活リズムアンケート(10 月)では、午前 0 時以降に就寝している生徒の割合が 40%、睡眠が足りていないと感じている生徒の割合は 66.5%、毎日朝食を取っている生徒の割合は 90.4%。 ・学校生活アンケート(1 月)では、スマートフォンの使用について家庭でルールが決められている生徒の割合は 38.8%、平日 1 日平均 3 時間以上使用している生徒の割合が 24.9%。	・睡眠が足りていないと感じている生徒の割合が 40%以下、毎日朝食をきちんと取っている生徒の割合が 95%以上。 ・スマートフォンについて、家庭での使用時間や時間帯についてルールが決められている割合が 70%以上。	・生徒保健委員会による「八頭高スマートプロジェクト」を実施し、生徒が自主的に生活習慣を整えることができるよう支援する。 ・日頃から学習規律の確立及び定着を図るよう指導し、スマートフォン・SNS の使い方については講演会や LHR を実施することで、生徒の自己管理能力の育成に取り組む。 ・生活習慣づくりに関する保護者研修会を実施する。			

2	心身の健全な発達の促進と主体性の伸長	規範意識の高	学校評価アンケートでは、100%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。なお、生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は 97%、職員の割合は 89%。	- ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が 98%以上。 - 改正した校則やマナーを守った上で、生徒の主体的な活動により、校則の意義を考え、必要な見直しが行われている。	- 挨拶の大切さやルール・マナーを遵守する意義を理解させ、自主的に守るよう指導する。 - 令和 7 年度の制服の変更にあわせ校則の見直しを行う。その際、生徒が主体的に参加するように支援する。			
		多様性に配慮した他者理解力の育成	- 学校評価アンケートでは、生徒 87%、保護者 77% が、学校は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 - 生徒 82%、保護者 72%は、学校が保護者(家庭)と連携して教育活動を行っていると考えている。	- 生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が 85%以上、保護者の割合が 80%以上。 - 保護者(家庭)と連携して教育活動を行っている と回答する生徒の割合が 85%以上、保護者の割合が 80%以上。	- 多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力を身に付け、他者への共感や思いやりなどの豊かな人間性を育む教育を推進する。 - 日頃の観察や面談、心理検査等をとおして生徒理解を深め、適切な指導・支援を行う。 - 家庭や地域との連携を密にし、地域全体で生徒の健全育成に取り組む。			
		部活動の推進	- 学校評価アンケートでは、部活動に所属する生徒のうち、学習との両立に向けて努力していると回答した生徒は 40%、ややできている生徒が 40%であったが、あまりできていないと全くできていないという生徒は 20%。 - 全国大会へ出場した生徒は 44 名(実人数)。	- 学習と部活動の両立に向けて努力している生徒の割合が 60%以上。 - 全国大会に出場する生徒数が 50 名(実人数)以上。	生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取り組めるような確な方針や目標・計画等を設定するとともに、学習との両立を支援する。			
		学校行事への積極的関与	学校評価アンケートでは、HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動していると回答した生徒は 89%。	HR 活動や生徒会活動、学校行事で主体的に活動している生徒が 80%以上。	諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画し、実施できるよう支援するとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。			
3	生徒・保護者・地域に信頼される学校作り	地域貢献活動の推進	- 学校評価アンケートでは、学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると回答した生徒は 89%。 - 探究活動により、地域理解が深まったとする生徒の割合は 38.3%。 - 昨年度第 1 回愛し愛され運動(6 月)には、413 名(全校の 57.9%)の生徒が参加。第 2 回(10 月)では 1、2 年を中心に 342 名(全校の 47%)が参加した。	- 学校が地域と連携した教育活動に積極的に取り組んでいると考える生徒が 90%以上。 - 地域理解が深まったとする生徒の割合が 60%以上。 「愛し愛され運動」への参加者が各回とも全校生徒の 40%以上。	- 地域の清掃活動や挨拶運動、保育所や福祉施設との交流行事に積極的に取り組み、地域を愛する心を育む。 - 小中学校との交流行事や探究活動での地域及び企業等との連携を充実させ、生徒が自身の生き方、あり方を考えられる機会とする。			
		情報発信の推進	学校評価アンケートでは、学校のホームページが学校の様子をよく伝えていると回答した生徒が 81%、保護者が 74%。	ホームページや SNS により、学校の様子をよく伝えていると考える生徒、保護者がともに 90%以上。	学校の様子を分掌や教科、部活動などの単位で HP 等をとおして発信する。			
4	業務改善の推進	時間外業務の縮減への意識	- 例年を踏襲している行事が多く、全体をとおして日程が詰まっており、時期によっては行事、会議が集中することがある。 - 令和 5 年度、時間外在校等時間が月 45 時間を超えた教職員が月平均 9.0 名、年間 360 時間を超えた教職員が 20 名。 - 令和 5 年度、年次有給休暇取得状況は、1 人当たり 13 日。	- できるだけ縮減する方針で行事の見直しが行われ、会議は短時間で効率よく終わる。 - 時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員が月平均 5 名以下、年間 360 時間を超える教職員が 10 名以下。 - 年次有給休暇取得が 1 人平均 14 日以上。	- 会議が短時間で効率よく終わられるよう、校内掲示板を積極的に活用する。 - 行事、会議の開催ごとに、その効果と課題を検証し、今後の改善に繋げる。また、業務のあり方を検討し、業務の効率化と精選を行う。 - 学事システムの効率的な活用。 - 特に、予算に関わる事業については、その都度検証を徹底し、早期に方針を立てることでより効果的な事業を構築したり、効果が十分でない事業は廃止したりと精選を図る。			

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]